

<今回>328回目 2023年5月15(月)14時~17時 601会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p447、3国史記の史料的性格 より

<前回>327回目(23-4-24)出席者8名

資料1) (~~2-3-1~~) 前回(23-4-24)のまとめ(清水)

2) 伽耶の舞(清水)

A 報告 九州年号の一つ、法隆寺金堂の釈迦佛の光背銘にある「法興」は異常に長いのは説明がつくのかという意味の質問があった。(法興元32)、白鳳年号も長い。法興は新羅王の名前にもある。詳細は三国史記を持っているので調べてみる。法興王は27年目に薨(西暦539年)。23年目に建元。5年目に薨。年号は天子の地位にあるものが決める。タリシホコは菩薩天子と称した。中国では大王と天子ははっきり使い分けられていると、説明された。皇帝=天子、王中の王という意味の大王とはっきり使い分けられている。稲荷山古墳の鉄剣銘、金銀の象箆技術、ヲワケの臣が杖刀人の首として仕えた主がワカタケル(カタシロ)大王である。関東地区の大王、熊本に旅行していた下中村さんから江田船山古墳の説明員も大王は天皇の事のような説明をしていた。日本では天皇が第一人者で大王は万葉集でもオオキミとうたわれ天皇の事を表しているのではないとの質問があり、各自意見が交わされた。

が

B 資料2朝鮮半島の倭族

(1) 伽耶の舞は田中俊明氏の「大伽耶連盟と任那」によって任那、伽耶について、2017年にまとめたものである。琴については12弦は南朝、13弦は北朝、正倉院の公開のときに一部が展示されていた。弁韓の地は最後まで統一国家はできなくて、百済、新羅に吸収されていった。馬韓の地に十濟国として建国されて、百濟国になり、新羅は3国の勝者になったので、天から6氏が降臨する神話から始まって、慶州を中心に発展してきた。弁韓の地は伽耶諸国と倭族が混在して、緩やかな諸国連合を構成していたのだろう。加羅国が中国南朝に通交した唯一の例である。倭王武の7国諸軍事に百済は除かれるが加羅は入っている。

C 読書 p442 三面の史料から 前回初めて読むことが出来なかった。

(1) 三国史記は、日本書紀と同じく著者はその属した王朝の利害を反映した史書である。それも極度に中国側に傾いている。中国に関する記事の量は年別に新羅本紀 166、高句麗本紀 200、百濟本紀 66

倭国に関しては 56 0 11

(2) 中国記事の量と倭国記事の量の落差は事実量の反映とは言えない。それは史書の性格として倭国記事に重点を為していないからである。例をあげる。(A) 249年4月倭人、舒弗郎于老を殺す。(新羅本紀第2)

(B) ①428年2月倭国の使者至る。従者50人(百濟本紀第3) ②608年隋の文林郎裴清、倭国に使いし奉る。我が国の南路を経る(百濟本紀第3)

(3) 舒弗郎于老は新羅の大將軍、兵馬の事を統率したとある。当然倭国の間に大戦闘の事実が予想されるが、249年の頃にはこの事実のみが書かれ、倭国側は卑弥呼の死んだ頃にあたる。男王をたてしも国中収まらず

2

5月29日(月) 14時から17時 601会議室

6月12日(月) 14時から17時 601会議室